

(内から)

詩壇且(？)は共血の没落と山崩壊への途を進ん

て行つてみるやうに見た。かなり基礎のい、推法

など。つぶん右やうです。「近代風景」「新生」「炬火」など。

また面なほ賑やかだがあるが、底力と統一がないう

です。この寒しい野原に放り出されることは私に

覚悟はしてみました。しかし多くの妻の質よき詩人た

ちが、その酷しさを耐えたりする丈の体力を持ってゐるく

れなければ困ると思つてゐます。

山崎素雄

山崎素雄